高崎町文化財調査報告書

第 5 集

町内遺跡試掘調査

1994

宮崎県北諸県郡高崎町教育委員会

序

高崎町は、宮崎県の南西部にあり、緑豊かな町です。町内には、宮崎県指定の「高崎町古墳」をはじめとして、数多くの埋蔵文化財があります。

近年、町内でも開発事業などが行われていますが、これらの中には埋蔵文化財に影響を与えるものもあります。高崎町の歴史を語る埋蔵文化財を後世に残し、郷土の歴史を学ぶための資料とすることは、私たちの責任です。

今回、開発事業と埋蔵文化財保護行政の調整を円滑に行うため、町内で開発事業が予定されている地域の試掘調査を行いました。今後とも町内の埋蔵文化財の状態を明らかにし、歴史資料として整備するとともに、開発事業との調整を行ってまいります。

今回の調査が実施できましたのも、土地所有者の皆様をはじめ多くの方々のご理解とご協力をいただいた結果であると感謝いたしております。

平成6年3月

高崎町教育委員会

教育長　岩　切　光　明

例　　言

1．本書は、高崎町教育委員会が平成５年度に、文化庁及び宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡試掘調査の概要報告書である。

2．調査は、高崎町教育委員会が主体となって実施した。
調査組織は、次のとおりである。

調査主体　　高崎町教育委員会

教育長	岩切光明（平成５年７月13日より）
教育長職務代理者	名頭園政利（平成５年７月12日まで）
社会教育課長	海老原孝幸
同課長補佐	山崎秀樹
同主査	岩下待子（庶務担当）
同主事	山嵜　薫（調査担当）
県文化課係長	面高哲郎（調査指導）
同主査	石川悦雄（調査指導）

3．本書で使用した標高は、高崎町役場都市計画課が設置した基準点（Ｔ．Ｐ．）を使用した。
また、第３図の北は磁北を、第５図の北は座標北を表している。

4．本書の執筆・編集は、山嵜が行った。

5．調査にあたっては、土地所有者並びに全国酪農協同組合連合会・高崎町役場都市計画課の協力を得た。

6．出土遺物や調査の資料は、高崎町教育委員会で保管する。

目　　次

1　高崎町の概要……1

2　政所第１・２遺跡……2

3　土地区画整理予定地……6

挿図目次

第１図　試掘調査地点位置図……1
第２図　政所第１・２遺跡層序概略図……2
第３図　政所第１・２遺跡試掘坑配置図及び地形図……3
第４図　区画整理予定地層序図……6
第５図　区画整理予定地試掘坑配置図……7

図版目次

図版１　政所第１・２遺跡調査地点近景……4
図版２　政所第１・２遺跡試掘坑10　遺構検出状態・層序……5
図版３　区画整理予定地航空写真……9
図版４　区画整理予定地（大字大牟田1915－４）近景・層序……10
図版５　区画整理予定地（大字大牟田1260－１）近景・層序……11
図版６　区画整理予定地（大字大牟田1259－２）近景・層序……12
図版７　区画整理予定地（大字大牟田1219－４）近景・層序……13
図版８　区画整理予定地（大字大牟田1289－15）層序・作業状況……14

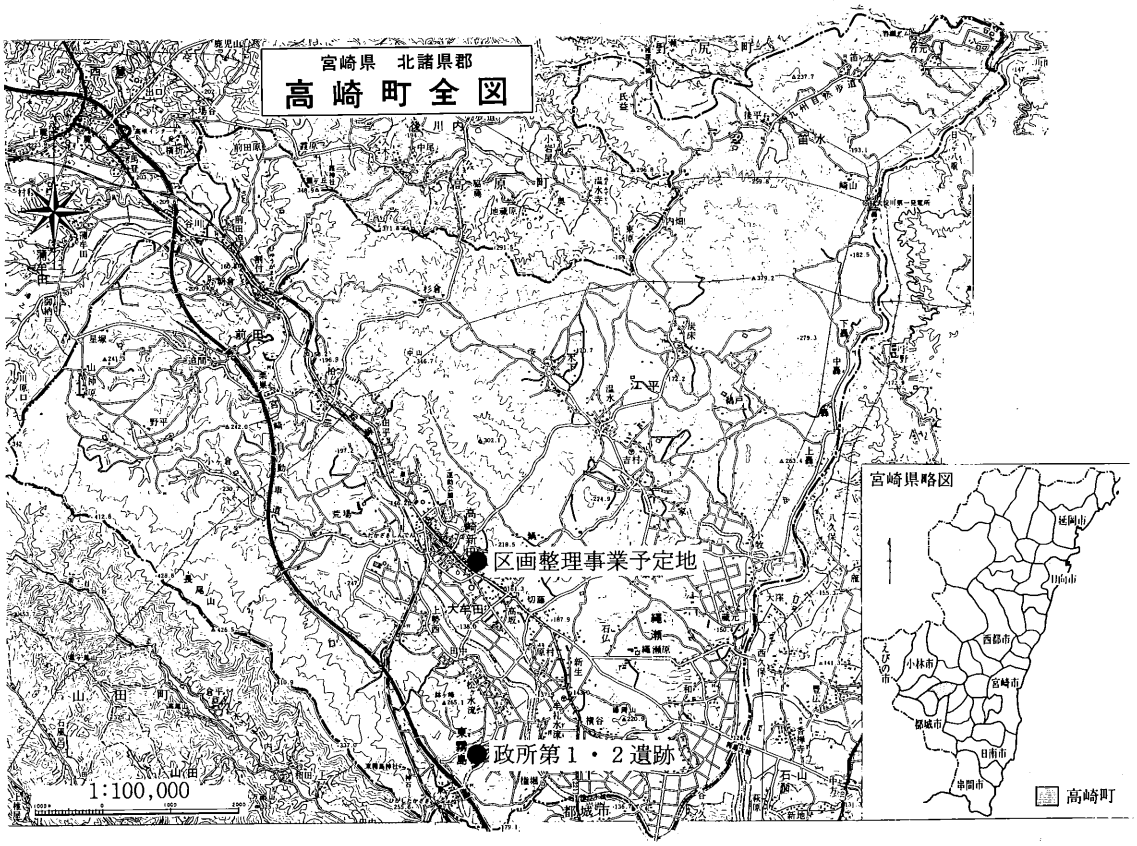
1　高崎町の概要

高崎町は宮崎県南西部の都城盆地北西部にある。標高300ｍ程度の山地や台地が面積の半数以上を占め、水田は標高120ｍ～160ｍの位置に広がる。

平成２年度と３年度に実施した遺跡分布調査の結果、縄文時代から中世にかけての多数の遺物散布地が確認された。

代表的な遺跡は、縄文時代後期の集落跡が調査された栢木（柏木）遺跡・北迫遺跡（大字大牟田）、弥生時代中期の石蓋土壙墓が調査された朴木遺跡（大字江平）、同後期の日向型竪穴住居跡が調査された上示野原遺跡、古墳時代の遺跡では塚原古墳群（大字江平）や地下式横穴墓、平安時代では越州窯青磁碗が出土した政所第２遺跡がある。中世では、町内全域に遺物の散布が認められ、高崎城を初めとして、多くの山城が築かれる。

〈参考文献〉
高崎町史編纂委員会『高崎町史』1990



第１図　試掘調査地点位置図

2　政所第１・２遺跡

(1)　調査に至る経緯

平成５年１月に全国酪農業協同組合より当該地に「南九州酪農サービスセンター（仮称）」を建設したい旨の申し出があり、高崎町教育委員会と埋蔵文化財の取扱について協議を行った。当該地は周知の遺跡で、越州窯青磁碗が出土したことが知られており[1]、地下遺構の残存が予想された。協議の結果、試掘調査を行い地下遺構の残存状態を確認したのちに、再度協議を行うことで合意した。

(2)　調査の概要

試掘調査は、工事予定地（大字東霧島913－1・914－1・916－1～3・917－1・918・面積11,414m²）を対象とした。

調査対象範囲内に、２ｍ×２ｍの試掘坑を当初12ヵ所計画したが、調査の結果に合わせて補助坑を入れ結果的には14ヵ所の試掘坑を調査した。

調査は、平成６年５月17日～27日の間で行った。

(3)　調査の結果

①　基本的層序

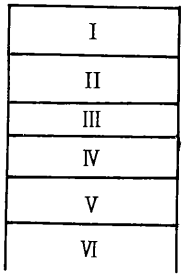
基本的層序は、第Ⅰ層：暗褐色土（耕作土）・第Ⅱ層：黒褐色土・第Ⅲ層：暗茶褐色土・第Ⅳ層：暗褐色土・第Ⅴ層：暗褐色土（御池軽石混入）・第Ⅵ層：黄橙色軽石（御池軽石）である。

②　検出遺構

遺構は、試掘坑10で中世の柱穴と思われるPit2を第Ⅴ層上面で検出したのみである。その他の試掘坑では、第Ⅵ層まで削平や整地が及んでおり、地下遺構は残存していない。

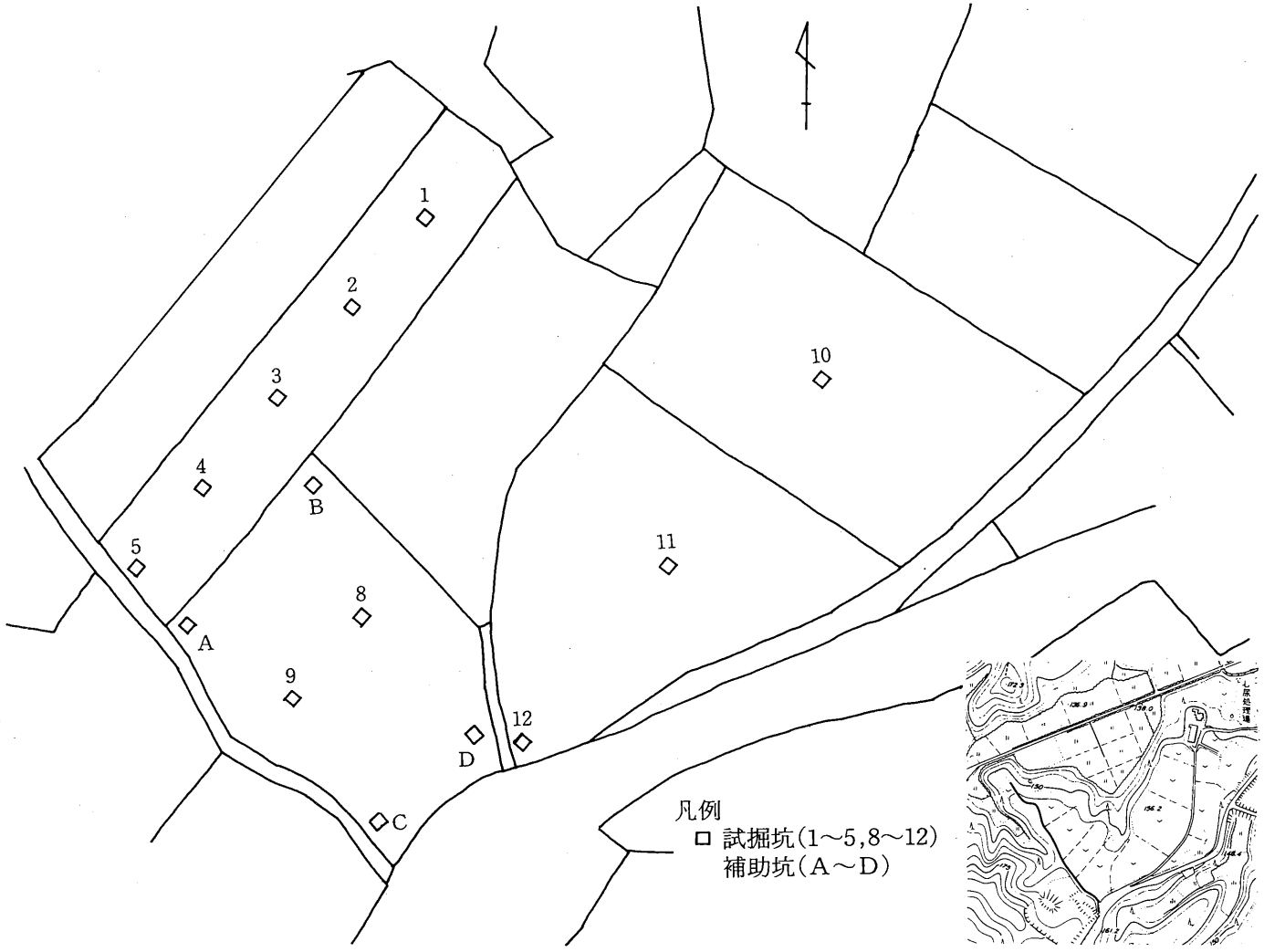
③　出土遺物

出土遺物は、土師器片10点・近世以降の陶磁器５点である。



第２図　層序概略図
(1:40)

注(1)　面高　哲郎　「高崎町東霧島出土の輸入陶磁器」
『宮崎考古第６集』1980



第3図　政所第1・2遺跡試掘坑配置図(1:1,000)及び地形図(1:10,000)

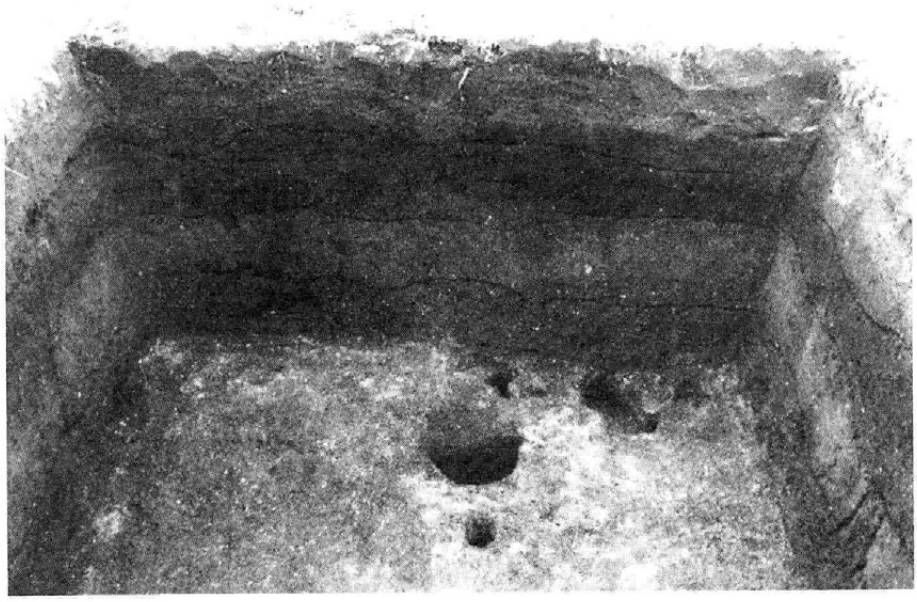
図版1

政所第１・２遺跡　調査地点近景（南西より）

政所第１・２遺跡　調査地点近景（南より）

図版2

試掘坑10　遺構検出状態（南西より）



試掘坑10　東壁層序（南西より）

3　土地区画整理事業予定地

(1)　調査に至る経緯

高崎町役場都市計画課では、平成７年度事業開始を予定して総面積約33.7haを対象とする「高崎都市計画事業 新田地区土地区画整理事業」を計画している。当該地は、高崎町の中心部に位置し、現在宅地化が進行している。事業対象範囲は、周知の遺跡ではないが、南西に緩やかに傾斜する地形で、遺跡の存在が予想される。

当該地周辺は、近世の時期には島津藩主の直持山で御物山と言われていた[(1)]。

(2)　調査の概要

調査は、耕作の関係で平成６年２月24日～３月18日までの限定された期間となった。

２ｍ×２ｍの試掘坑をおよそ20～30ｍ間隔で配置し、地下遺構の確認を行った（試掘坑総数32)。各試掘坑とも第Ⅵ層の御池軽石層が厚く堆積しており（２ｍ以上)、崩落の危険があるため第Ⅵ層より下位の状態は大部分の試掘坑で不明である。調査終了後は、転圧を行い耕作に支障がないよう埋め戻した。

(3)　調査の結果

①　基本的層序

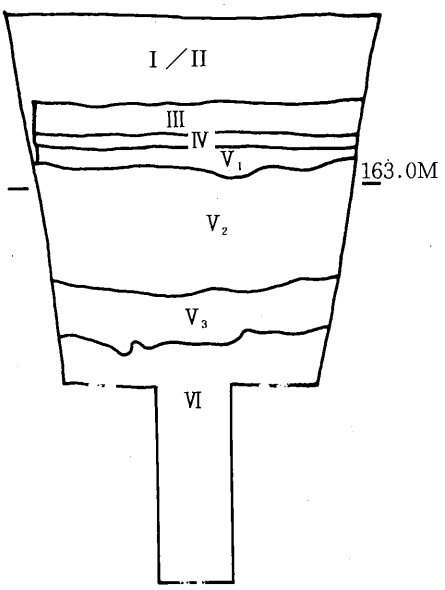
各試掘坑とも削平など深くまで及んでおらず、残存状態は良好である。基本的層序は、第Ⅰ層：暗褐色土(耕作土)・第Ⅱ層：暗褐色土(整地層)・第Ⅲ層：暗茶褐色軽石(高原スコリア)・第Ⅳ層：黒褐色土(暗灰色火山灰を含む)・第Ｖ１層：黒褐色土(スコリアを含む)・第Ｖ２層：黒色～黒褐色土・第Ｖ３層：黒色～黒褐色土(第Ⅵ層を含む)・第Ⅵ層：黄橙色軽石(御池軽石)・第Ⅶ層：黒灰色粘質土・第Ⅷ層：淡黄褐色土(赤色粒混入)・第Ⅸ層：黄橙色火山灰(アカホヤ)・第Ⅹ層：暗灰色土・第Ⅺ層：暗茶褐色土である。

②　検出遺構

いずれの試掘坑での遺構は検出されていない。

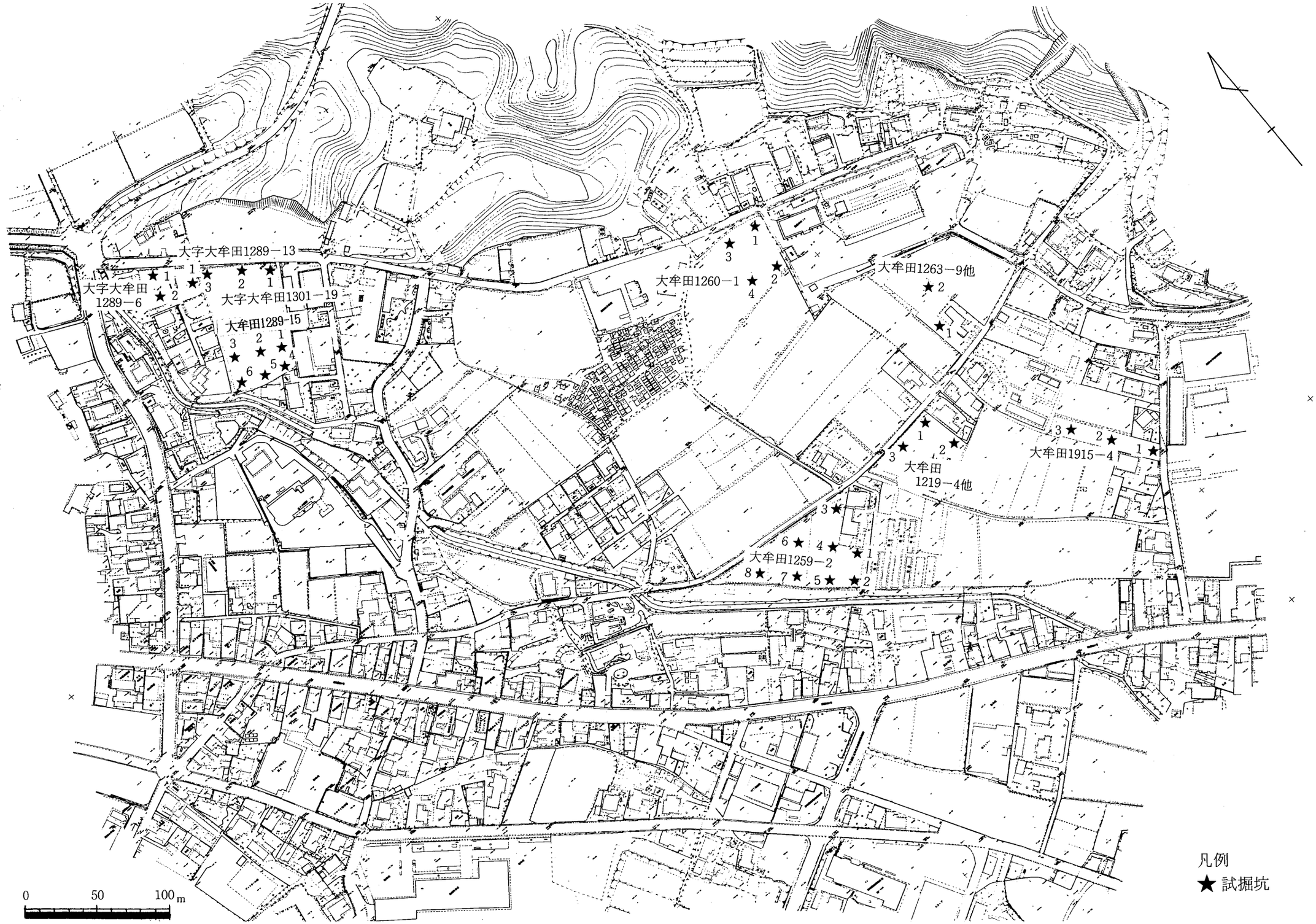
③　出土遺物

整地層より、土師器が２点出土しただけである。

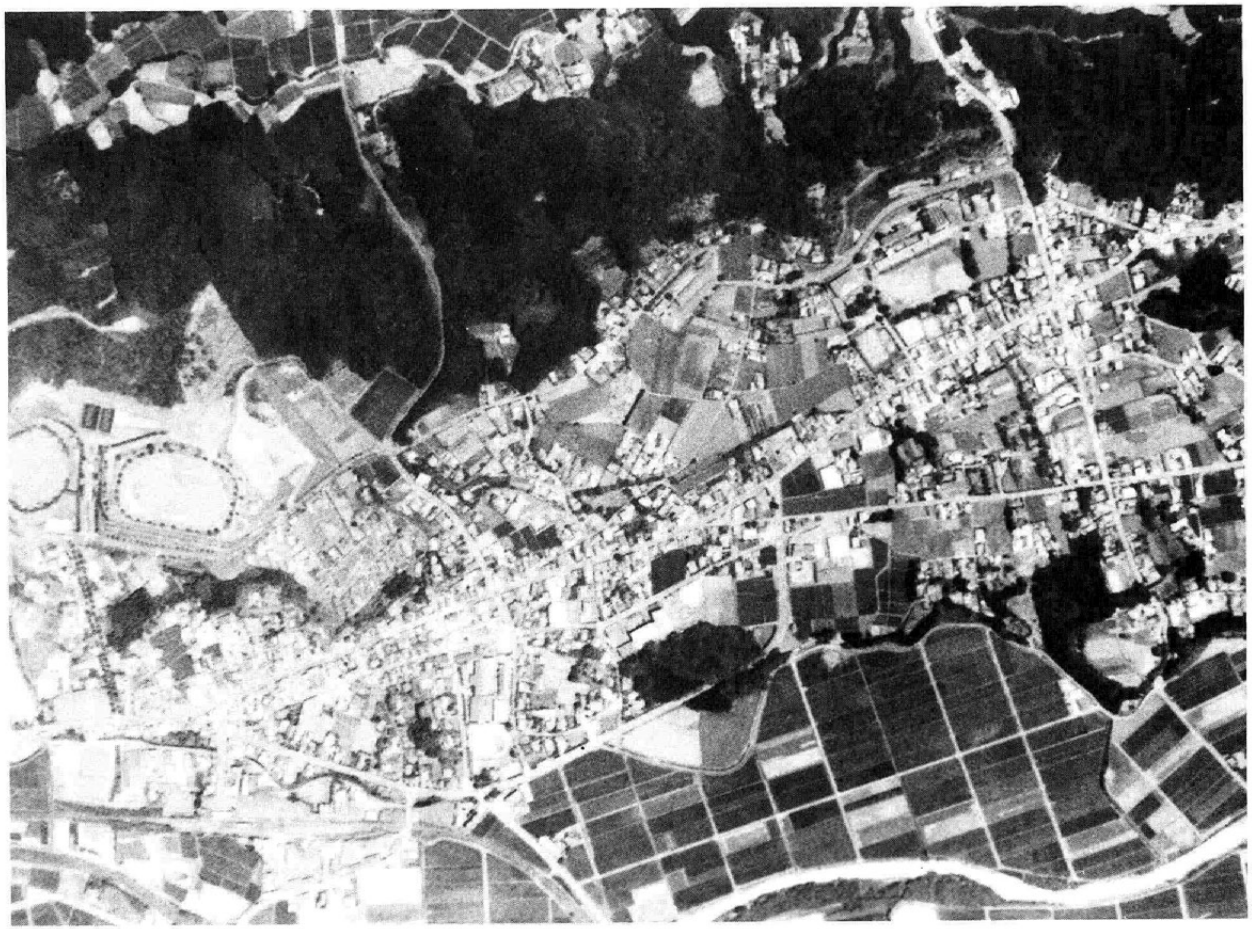


第４図　層序図
(大牟田1260－1・試掘坑１　1:40)

注(1)　高崎町史編纂委員会『高崎町史』1990



第５図　区画整理予定地内試掘坑配置図(1:3,000)

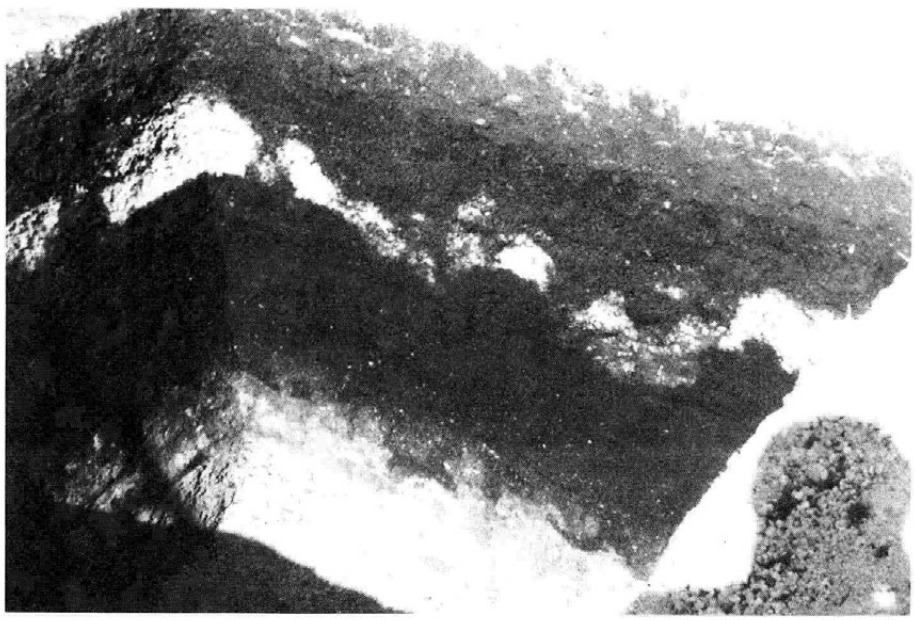


区画整理予定地航空写真（平成５年８月28日撮影　高崎町役場都市計画課提供）

図表３

図版4

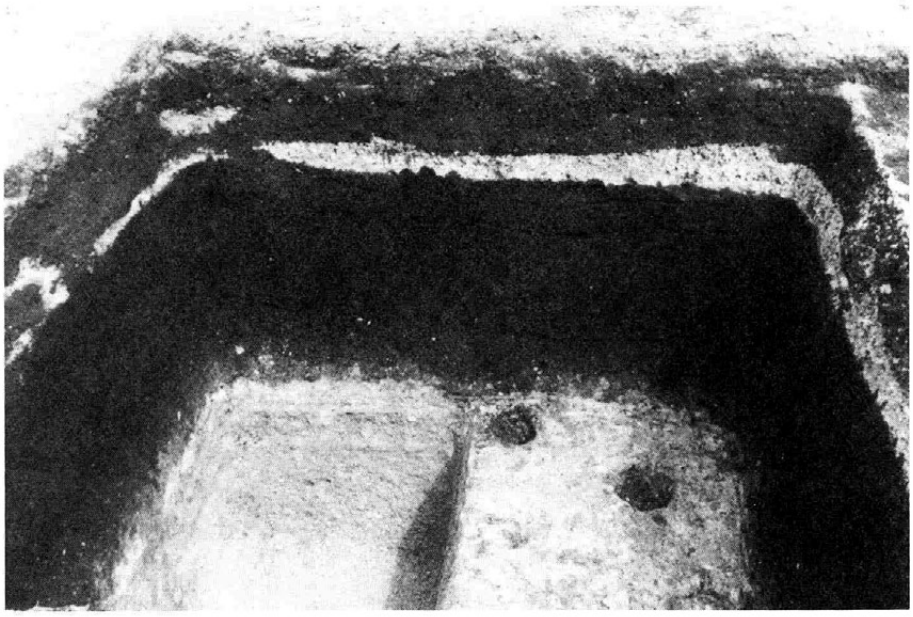
調査地点近景　大字大牟田1915－4番地（南東より）



大字大牟田1915－4番地　試掘坑２　北壁層序（南より）

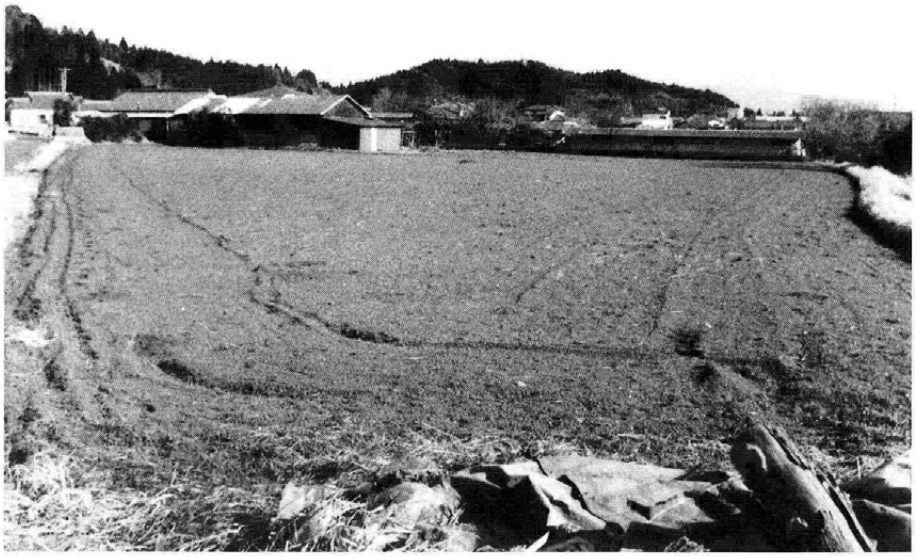
図版5

調査地点近景　大字大牟田1260－1番地（東より）

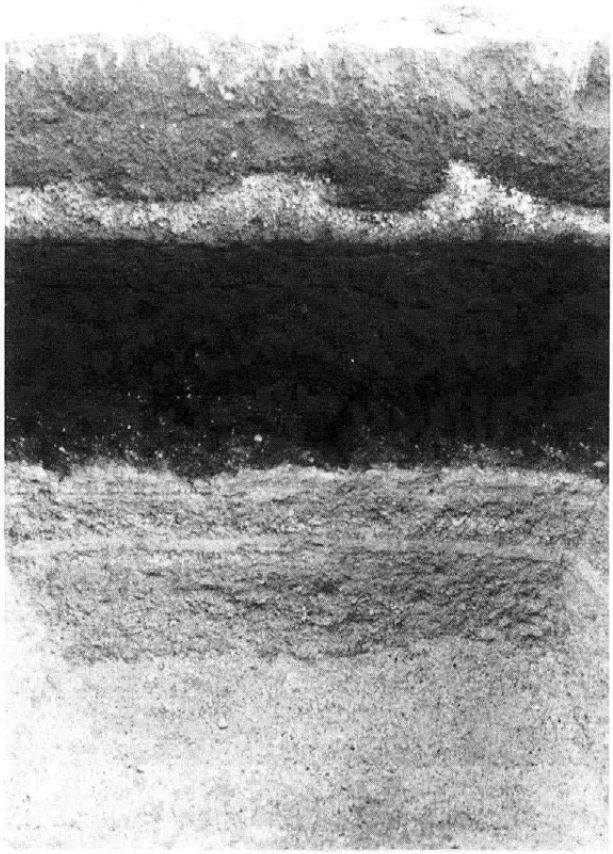


大字大牟田1260－1番地　試掘坑２　北壁層序（南より）

図版6

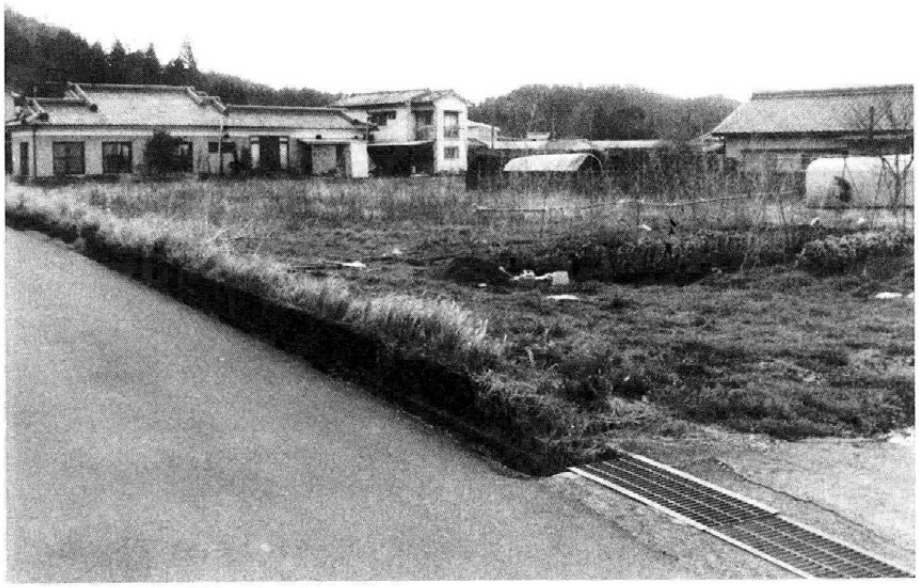


上：調査地点近景
大字大牟田1259－2番地
（西より）

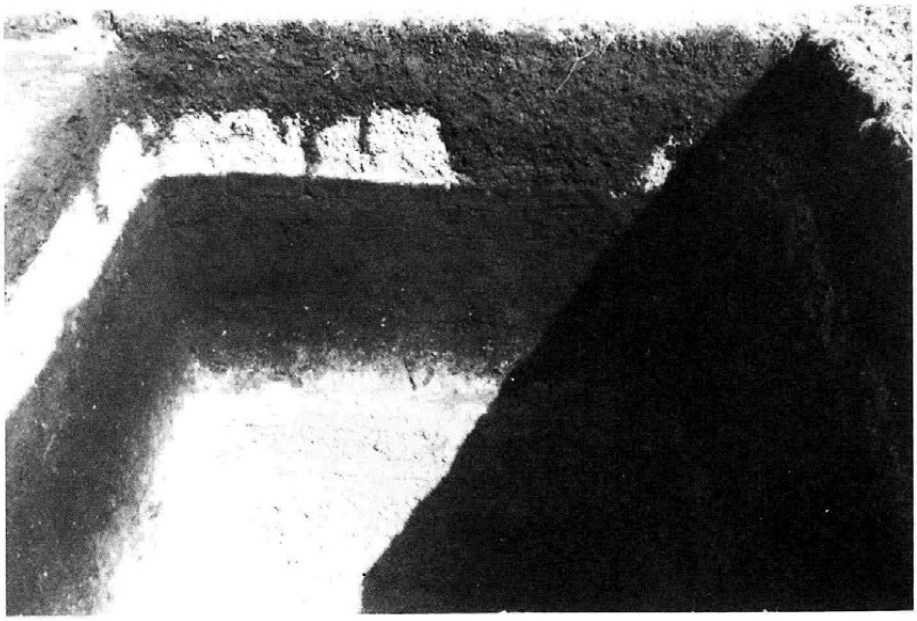


下：大字大牟田1259－2番地
試掘坑5
北壁層序（南西より）

図版7

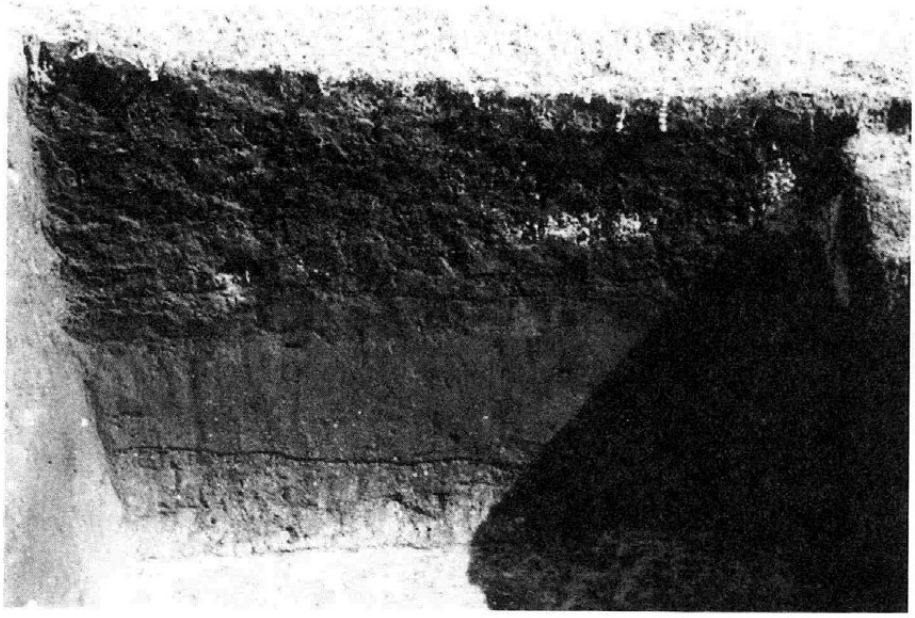


調査地点近景　大字大牟田1219－4番地他（西より）

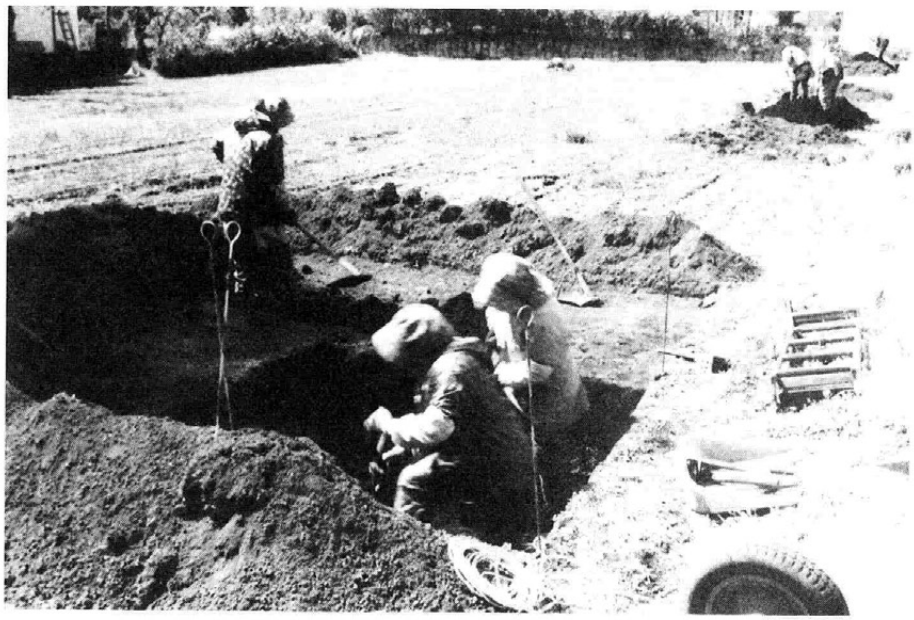


大字大牟田1219－4番地他　試掘坑１　東壁層序（西より）

図版8



大字大牟田1289－15番地　試掘坑３　北壁層序（南西より）



大字大牟田1289－15番地　試掘坑１　作業状況（東より）

高崎町文化財調査報告書

第 5 集

町内遺跡試掘調査

発行年月日　平成6年3月31日
発　　行　高崎町教育委員会
印　　刷　長　崎　印　刷